

重点目標	具体的取組		実現状況の達成度判断基準
生徒指導： 健全なる身体を養い、純真 明朗を旨として、協同友愛 の学校生活を送る。  主担当： 生徒部、各学年	① 生徒部	本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、すべての教職員が日常から生徒の健全な人間関係の構築を意識した指導を行う。具体的には、情報モラル教育、いじめアンケートや個人面談を実施し、迅速な情報共有と組織的連動によっていじめの未然防止と早期対応を行う。	教員アンケート： 「いじめ予防や早期発見、早期対策に取り組んでいる」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満
	② 生徒部	教育相談支援委員会の開催日程と出席メンバーを精選し、充実化する。教職員間での迅速な情報共有を可能にするしくみをつくる。全教職員が、日頃からの生徒観察により気づいたことを素早く共有することを心がける。チーム学校として校内だけでなく外部機関とも連携し、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。	生徒アンケート： 「先生は生徒理解に務め、生徒個人の悩みにも対応している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満
	③ 各学年 生徒部	生徒が「公と私」「校内と校外」「オンとオフ」を意識し、場に応じた適切な言動がとれるよう、生徒の自覚を高める指導を行う。特に、来校者や学校関係者に対して進んで挨拶ができるよう、校外での活動時や来校者と接する場面において、挨拶の指導を徹底する。(生徒部)	生徒アンケート： 「挨拶をしっかり行っている」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満
学習指導・実習： 真理に対して強い情熱をい だき、あくまでも謙虚に努 力精進する。  主担当： 教務部、各学年、研究部	① 教務部	教員の出張・年休等による自習を極力減らし、授業時間を確保するため、時間割変更を適切に行う。やむを得ず自習となる場合も、自習課題等を準備する。	教員アンケート： 課題なし自習となった授業の回数が A：5回未満 B：8回未満 C：12回未満 D：12回以上
	② 各学年	定期考査や学校行事・探究活動などの機会を活用して振り返らせることによって、何をなすべきか生徒一人ひとりが自らの課題を設定し、主体的に克服しようとする力を育む。	生徒アンケート： 「学校生活において、何をすべきかを自分で考えて主体的に行動している」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満
	③ 研究部 ・研究	生徒育成のための教科研究や、教育業界における課題解決を目的としたプロジェクト研究を行う。教科教育に資する課題、学校目標に資する課題、生成AIなど今日的な課題を各教員、グループで設定し、取り組む。	教員アンケート： 「教科教育に資する課題、学校目標に資する課題、生成AIなど今日的な課題に取り組むことができた」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える教員が A：90%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満
	④ 研究部 ・実習	教育実習生に教員としての資質・能力を育成する教育実習を行う。教職大学院生に対して資質・能力を向上させる学校実習の場を提供する。	教育実習・学校実習事後アンケート： 「本校での教育実習・学校実習が、教員としての資質・能力を育成する機会となった」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答えた実習生が A：80%以上 B：65%以上 C：50%以上 D：50%未満
進路指導： 独立自治の精神をもとに、 個人としての人間完成に努 めるとともに、社会人とし ての品性を陶冶する。  高い志や大きな目標を持 てるような進路指導を行う とともに、生徒一人ひと りが自らの学びや経験を踏 まえて進路を考え、その実 現に必要な学力を育て るための支援を行う。  主担当： 進路部、各学年	① 1,2学年 進路部	LHRを利用し、外部講師による生徒向けの進路講話や、進路部主催の進路オリエンテーションを行う。	生徒アンケート： 「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満
	② 3学年 進路部	保護者懇談や保護者対象の進路説明会を通して、生徒の進路に関して保護者と十分情報交換を行い、信頼関係を築く。特に3年生の保護者には7月に外部講師による進路説明会を行う。	保護者アンケート： 「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満
	③ 全学年 進路部	担任の生徒面談や学年集会・進路オリエンテーション等の各種進路行事を有効に活用し、生徒の現状を把握し、生徒の意欲を高めるとともに、具体的にやるべきことを明確にし、共有する。	生徒アンケート： 面談等を通じて ①「課題が明確になった」と答える生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 ②「意欲が高まった」と答える生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満
学校運営： 第一学年（80回生）  “第一志望”主義  等身大の自分を知る 『ゆずれない』を問い直す	①学年通信「のぶれす・おぶり〜じゅー-Learning to be the 80th Explorers-」を発行する  ②担任面談を年4回程度、必要に応じて行う。  ③LHRを利用し、外部講師による進路講話を含む進路学習を行う。(3.進路指導①)	① 学年通信の発行回数 A：20回以上 B：15回以上 C：10回以上 D：10回未満  ② 担任面談の実施回数 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回以下  ③ 生徒アンケート：「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：85%以上 B：75%以上 C：60%以上 D：60%未満	
第二学年（79回生）  挑戦を後押しするととも に、学校を心理的安全性の 高い場所にする			① 学年通信の発行回数 A：10回以上 B：7回以上 C：4回以上 D：4回未満  ② 担任面談の実施回数 A：3回以上 B：2回 C：1回 D：行っていない  ③ 生徒アンケート：「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：85%以上 B：75%以上 C：60%以上 D：60%未満
第三学年（78回生）  自主性・自律性の花を咲か せる  生徒が自由と責任を意識 し、多様性を尊重し、挑戦 する姿勢を育てる	①学年通信「Pathfinder（パスファインダー）」を発行する  ②担任面談を年3回程度、必要に応じて行う。  ③外部講師による保護者向け進路説明会を行う。(3.進路指導②)	① 学年通信の発行回数 A：10回以上 B：7回以上 C：4回以上 D：4回未満  ② 担任面談の実施回数 A：4回以上 B：3回以上 C：2回以上 D：2回未満  ③ 生徒アンケート：「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：85%以上 B：75%以上 C：60%以上 D：60%未満	
教職員： 教職員の働き方を見直し、 教職員がすべき仕事に時間 を割けるようにする。			管理職  HR面談期間に45分授業を実施することや業務支援員の採用によって教員の可処分時間を確保し、教育活動の質を高める。  IT機器の活用やAIを用いた教育活動を推進することにより、求められる教育のアップデートをはかり、自己研鑽や協働の機運を醸成する。